

カンボジア視察渡航に参加して

9月1日キリングフィールド、9月2日トゥールスレン博物館に行きました。なぜ、カンボジアが、こんなにも貧しいのか、そうなった理由、歴史を知らなくてはと思ったのです。予備知識として、ポルポト政権時代の事を勉強してきたのに、ショックで言葉も出ず、辛くて写真も撮る事もできませんでした。同じ民族なのになぜ…。医者、教師、僧侶など知識人が殺され、(ただ眼鏡をかけているというだけで、むごく殺された人もいます。)人口約900万人→300万人に減少したと言われています。

9月2日の午後、NGO うどんハウス代表の元日赤の婦長さんが援助して作った、小学校や小学校のトイレ、手洗い場、保健室を視察に行きました。

英語もあまり喋れないのに、シニア海外ボランティアとして、4年半カンボジア国立小児病院で医療支援をし、NGO うどんハウスを設立し、図書室の一角に保健室を作るよう指導したり、幼児・児童の死亡率の高いこの国に、トイレや手洗い場を設置して、衛生的な学習環境を確保する支援を行っている楠川さんのパワーに驚かされました。

9月3日、プノンペン→バタンバンまで6時間かけて移動しました。左側通行で、舗装されていますが、トゥクトゥクが走ったり、牛が歩いたりして、ヒヤッとすることが何度かありました。ホームランド孤児院に着くと、ReamSaru 君が待っていてくれました。彼と飛行機を作って遊びました。

9月4日午前中フェアトレード商品を作っているラチャナハンディクラフトに行きました。最初に送った足踏みミシンを使っているのにびっくりしました。また、子供を連れてくるのも、家の用事で遅れてくるのも自由。出来高払いなので、働きやすいだろうなあと思いました。

孤児院では、10名の里子さんが待っていてくれました。それぞれの里親さんからのプレゼントをもらって嬉しそうでした。シャボン玉をしたり、折紙をしたり、サッカーをしたりしました。

午後、シェムリアップに帰る6人の子共たちと3時間の車移動。カンボジアのミュージックをかけながらテンション MAX の子共達。

9月5日、アンコールワットまで30分の距離なのにに行った事がないという子供達と遺跡巡り。出会って3日目にして、Saru 君から手を繋いでくれました。35歳のガイドのソクチュームさんが、「自分が小学校に入学したのは、11歳の時で、その時はまだ、日本や他の国の支援は、まだあまりなかった頃で、貧しいから、ガイドの学校も無料で優先的に入れました。今は、いろいろな国の支援があるので、小学校に入る年齢が早くなりました。昔より恵まれている。」と言っていました。

Saru 君は14歳で小6、ほかの同級生は、15歳でした。貧しくて家の手伝いをしたり、行ける小学校の数が少なかったのかもしれません。

ガイドさんが、クメール語で子供達にも壁面のレリーフの説明をしてくれていました。一緒に遺跡をまわった子供達の中には、将来ガイドになろう！と思ってくれる人がいるかも…。子供達と廻れて楽しかったです。

私は、日本に生まれた事を喜び、物心ついた頃から、水道をひねれば、水は出るし、歯磨きや食事の前の手洗いは、当たり前だし。こういう制度を作ってくれた過去の人達に感謝しつつ、毎日を大切に生きていかなければいけないと思いました。